

通行止め、避難勧告、休校… 県内、大雨の影響続く

2010年7月16日 朝日新聞

梅雨前線の影響で続く大雨で県内は15日、緩んだ地盤が土砂崩れを引き起こし、新たな被害も懸念されている。農業への被害も明らかになってきた。

県によると、14日に土砂崩れで一時通行止めになった多賀町佐目の国道306号の佐目トンネル付近では15日も土砂が流出し、再び通行止めになった。長浜市鍛冶屋町でも市道が約20メートルにわたり土砂で埋まり通行止めになった。また、大津市仰木5丁目の天神川沿いの堤防の路肩が数メートルにわたり崩落。長浜市では15日までに計4棟の床下浸水があった。

大津市は住宅裏の斜面が崩落した同市和邇北浜の1世帯4人に新たに避難勧告を出した。この地区では14日にも1世帯1人が避難勧告を受けており、これら2世帯の住宅は家屋を支える地盤が崩れる危険があるという。市立葛川小学校(児童20人)と葛川中学校(生徒8人)の両校は通学路の土砂崩れのため臨時休校となった。

農作物や農業施設の被害も県内7市町で出ている。大豆の被害が大きく、彦根、東近江両市と愛荘町の大豆畑16ヘクタールが冠水。近江八幡市ではトウモロコシが1ヘクタールにわたり倒伏した。農業施設では、近江八幡市でビニールハウス15棟と作業小屋2棟が全壊、ビニールハウス3棟が一部破損した。